



平成23年12月13日

餅による窒息事故に注意 ～ 年末年始の餅による窒息に注意 ～

東京消防庁管内では、平成18年から平成22年までの5年間で、餅などによる窒息事故で601人が救急搬送されています。

東京消防庁では、年末年始に餅を食べる機会が増えてくるこの時期をとらえ、餅による窒息事故防止を心がけるよう呼びかけています。特に60歳以上に多く発生しており、事故全体の9割以上が60歳以上となっているため、特に注意が必要です。

餅による窒息事故の特徴

- 1 過去5年間、毎年100人以上が救急搬送されており、いずれの年も救急搬送人員の6割以上が中等症以上の診断を受けています。
- 2 月別にみると、1月が212人と最も多く、次いで12月が86人となっており、両者を合わせると298人で全体の約半数を占めています。
- 3 時間別にみると12時台に最も多く発生しています。
- 4 年齢区分別にみると80歳代が最も多く211人、次いで70歳代が199人となっています。また60歳以上の合計では552人となり、救急搬送人員の約9割を60歳以上の年齢層が占めています。
- 5 初診時程度をみると、約7割が入院の必要がある中等症以上と診断されています。

詳細は、添付資料をご覧ください。

問合せは、生活安全相談ダイヤルと生活相談メールで受け付けます。

「日常生活ではどんな事故が起きているの?」「事故の傾向を知りたいば・・・」
そんな日常生活の中での事故に関するお問合せやご相談は・・・

生活安全相談ダイヤル
0120-286-119

・平成24年3月30日(金)まで開設しています。
・利用時間 平日の8時30分から17時00分まで
・東京都内からおかけの場合に、ご利用いただけます。
・IP電話(050番号)などからは、ご利用いただけません。
・日常生活の事故に関する内容以外は、ご回答できません。
※ 平成23年12月29日(木)から平成24年1月3日(火)の間、受付はしておりません。

「日常生活ではどんな事故が起きているの?」「事故の傾向を知りたいば・・・」
そんな日常生活の中での事故に関するお問合せやご相談は・・・

生活安全相談メール
seikatsuanzen@tfd.metro.tokyo.jp

・平成24年3月30日(金)まで開設しています。
・24時間受付していますが、回答は平日8時30分から17時00分までとなります。
・日常生活の事故に関する内容以外は、ご回答できません。
※ 平成23年12月29日(木)から平成24年1月3日(火)の間、受付したメールの回答は、平成24年1月4日以降となります。

東京消防庁では、今後も同様の救急事故の発生状況を注視し、注意を促すなど、都民の安全確保に努めてまいります。

問合せ先

東京消防庁 (代) 電話 3212 - 2111
防災安全課防災安全係 内線 4207
広報課報道係 内線 2345～2349

餅による窒息事故をなくそう

東京消防庁

年末年始には、餅料理を食べる機会が増えることから、12月から1月にかけて餅など¹⁾による窒息事故が多くなっています。東京消防庁管内²⁾では平成18年から平成22年までの5年間で、餅などに起因した窒息事故で601人が救急搬送されています。

1 年別の救急搬送人員及び中等症（入院をとまうもの）以上の割合の推移

年別の救急搬送人員は横這い、しかも中等症以上の割合が高い！

年別の救急搬送人員は横這い状態にあり、中等症以上の割合はいずれの年でも6割を超えています（図1）。

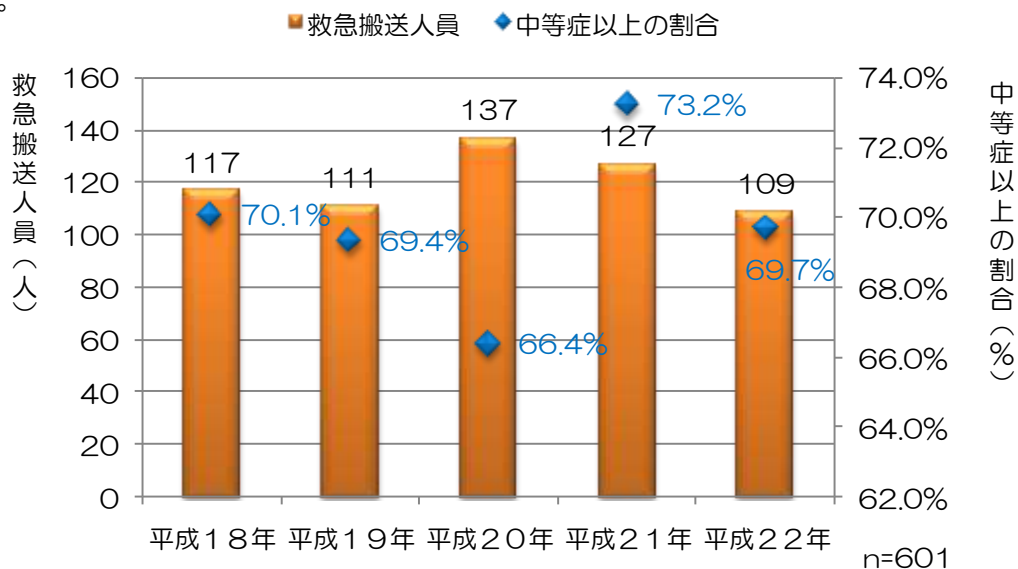


図1：年別の救急搬送人員及び中等症以上の割合

2 月別の救急搬送人員

寒い季節に比較的多く発生、1月は突出して救急搬送人員が多い！

1月が最も多く212人で全体の約35%、次いで12月が86人で約14%となっており、両者を合わせると298人となり全体の約50%を占めています（図2）。

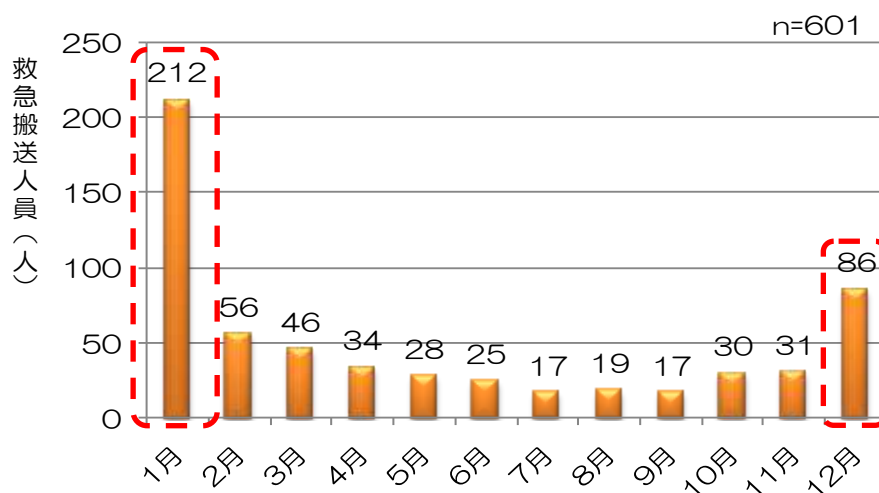


図2：月別の救急搬送人員

1) 餅以外に団子・大福等を含みます。

2) 東京都のうち東久留米市、稲城市、島しょ地区を除く地域（東久留米市は平成22年4月1日より東京消防庁管内となった。）

3 時間帯別救急搬送人員

昼食の時間帯に事故が多く発生している！

時間帯別にみると、12時台が最も多く89人となっています（図3）。

また、12時台に発生した事故を年齢区別にみると、80歳代が41人と最も多く、次いで70歳代が30人となっています。また60歳以上では86人となり12時台に発生した事故の約97%と高い割合を占めています（図4）。

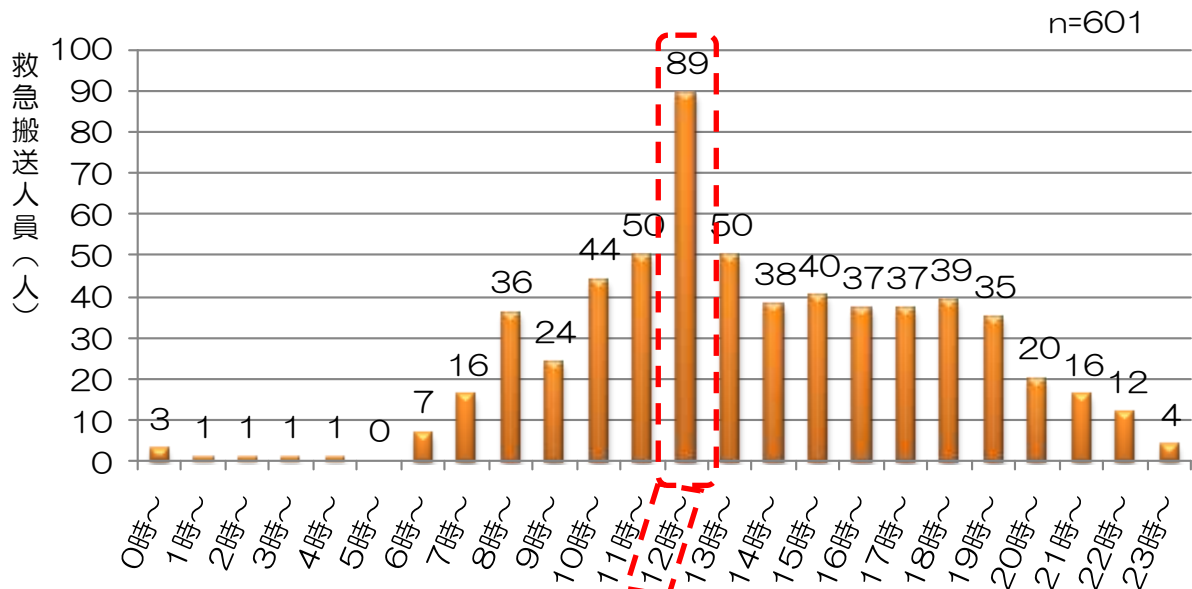


図3：時間帯別の救急搬送人員

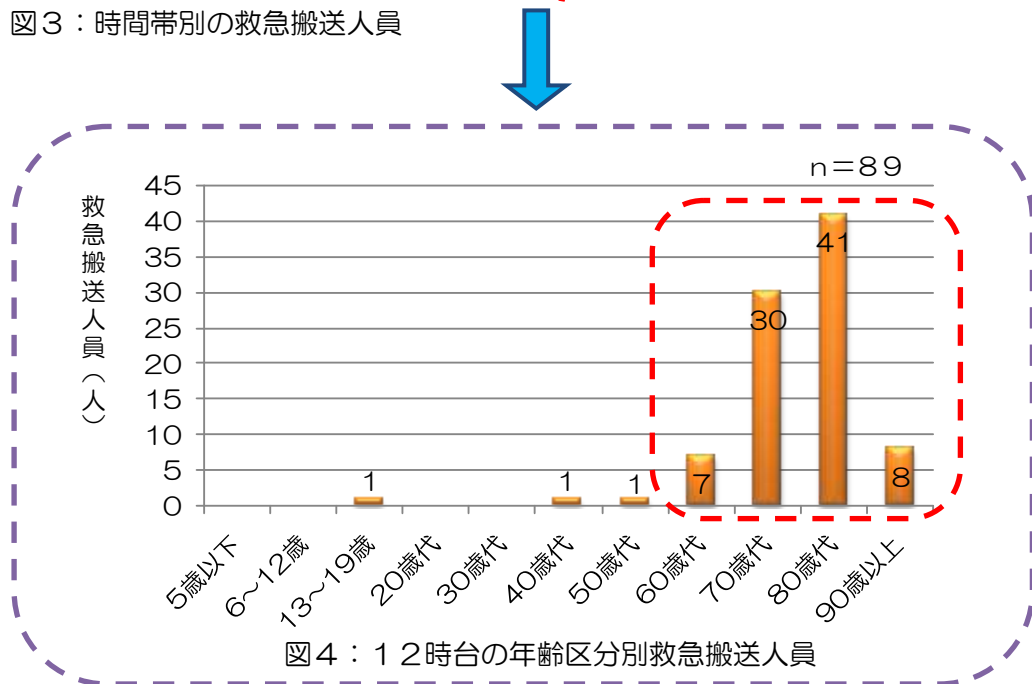


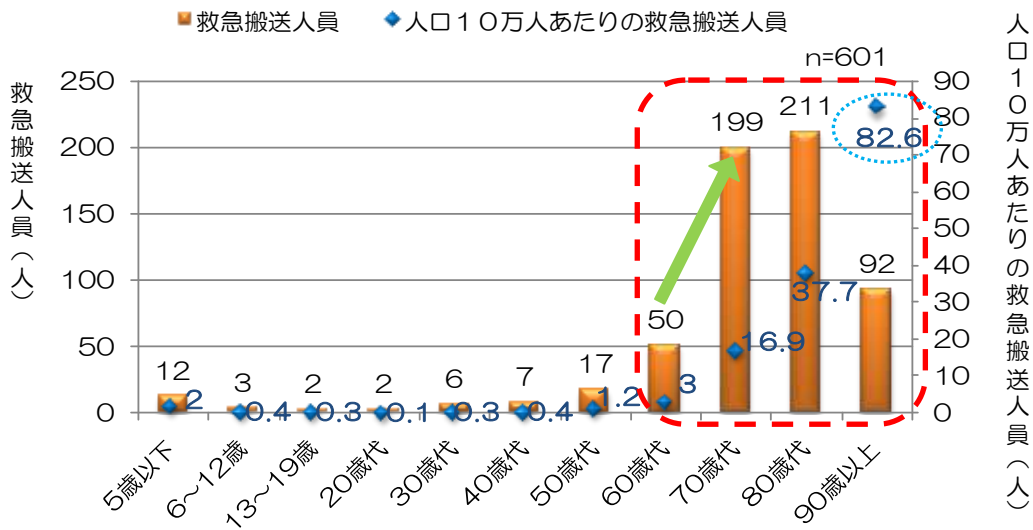
図4：12時台の年齢区別救急搬送人員

4 年齢区別の救急搬送人員

高齢者世代で多く発生！

年齢区別にみると、80歳代が最も多く211人で全体の約35%を占めており、次いで70歳代が199人で約33%となっています。また60歳以上から救急搬送人員が急激に増えており、60歳以上の救急搬送人員は552人となり、全体の約92%を占めています。

さらに、人口10万人あたりの発生件数をしてみると、70歳以上の年代に多く発生しており、特に90歳以上では82.6人と非常に高い割合を示しています（図5）。



※人口10万人あたりの件数は平成23年1月1日現在の東京都住民基本台帳を基に算出

図5：年齢区別の救急搬送人員及び人口10万人あたりの救急搬送人員

5 窒息事故の初診時程度別割合

窒息事故の約7割が中等症以上！
年齢の上昇とともに中等症以上の割合が高くなる傾向！

餅などによる窒息事故のうち、419人が初診時程度が中等症以上となっており、これは救急搬送人員の約7割を占めています（図6）。

また、年齢区別の初診時程度割合で、中等症以上の割合が最も高い年代は50歳代で76.5%と高い割合を示しています。60歳以上の年代では約7割以上が初診時程度が中等症以上と診断されており、年齢の上昇とともに中等症以上となる割合が高まる傾向にあります（図7）。

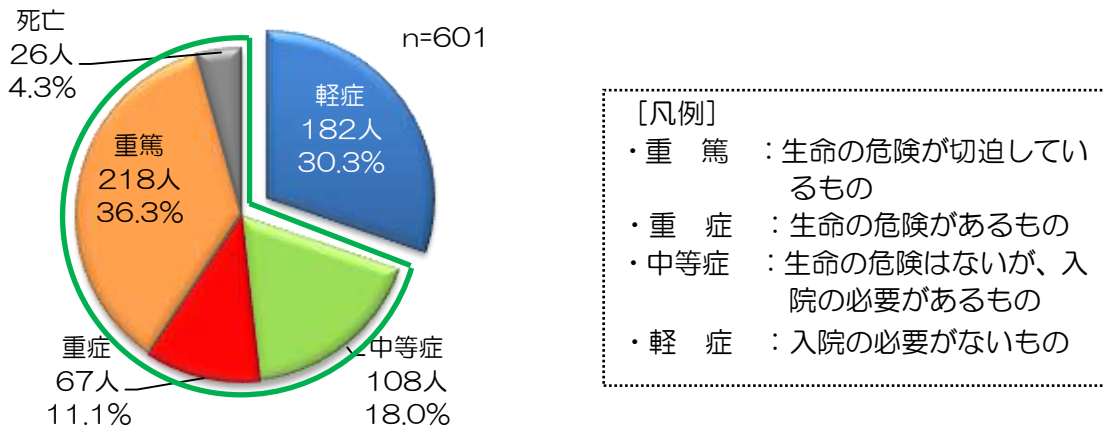


図6：餅などによる窒息事故の初診時程度割合

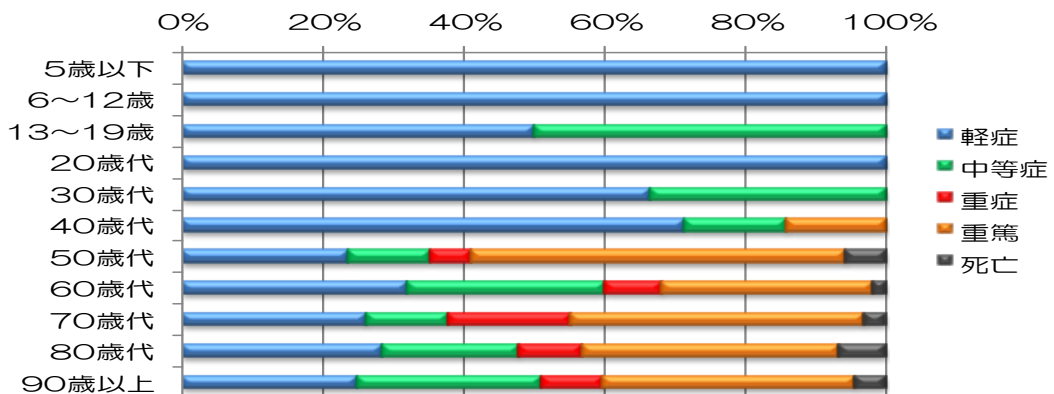


図7：年齢区別窒息事故の初診時程度割合

6 近年発生した餅などによる窒息事故事例

事例1

自宅で家族と食事中に餅を喉に詰まらせ呼吸困難となったもの
(平成22年1月 47歳女性 軽症)

事例2

昼食にお雑煮を食べていたところ喉に詰まらせ意識朦朧となったもの
(平成22年1月 97歳男性 重篤)

事例3

昼食を夫婦で食べていたところ、妻がきな粉餅を喉に詰まらせ意識を失い倒れたもの
(平成22年2月 64歳女性 重篤)

事例4

昼食で餅を喉に詰まらせ倒れたものを妻が目撃し救急要請したもの
(平成22年2月 77歳男性 死亡)

事例5

食事中に白玉団子を喉に詰まらせたもの
(平成22年3月 88歳男性 重篤)

乳幼児や高齢者の窒息事故に注意

乳幼児や高齢者に多い理由は？

乳幼児は、主に臼歯がなく食べ物を噛んですりつぶすことができないことや、食べながら遊んだりする傾向にあるため、窒息事故が発生しやすくなっています。

高齢者は、一般的に、噛む力や飲み込む力が弱くなり、だ液の分泌量も減少し、食物が詰まりかけた時に咳をする反応が弱いなどの理由により窒息事故が発生しやすくなっています。

※一般的な傾向であり、食べる機能には個人差があります。

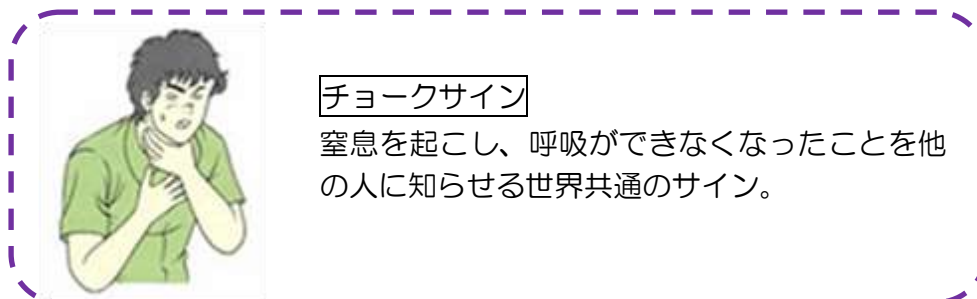
食品による窒息事故を防ぐために

- ① 食品を小さく切るなど、食べやすい大きさにする。
- ② 急いで飲み込まず、ゆっくりとよく噛み砕いてから飲み込む。
- ③ 食事の際は、お茶や水などを飲んで喉を湿らせる。
- ④ 食事中は遊ばない、歩きまわらない、寝ころばない。
- ⑤ 高齢者や介護を要する方は、粥などの流動食に近い食物でも窒息を起こすことがあるため食事の際は目を離さない。

応急手当の方法

チョークサインを出しているとき、声を出せないとき、顔色が急に真っ青になったときなどは、食べ物などにより気道が塞がれていることが疑われます。そのようなときは・・・

- 1 ① まず咳をすることが可能であれば、できる限り咳をさせます。



- 2 ② 咳もできずに窒息しているときは、年齢・性別に関係なく実施可能な**背部叩打法**（はいぶこうだほう）を行きましょう。

【背部叩打法の実施手順】

- 1 ① 食べ物を詰まらせた人（以下「傷病者」といいます。）が立っているか座っている場合は、やや後方から片手で傷病者の胸もしくは下あごを支えて、うつむかせます。
（傷病者が倒れている場合は、傷病者を手前に引き起こして横向きにし、自分の足で傷病者の胸を支えます。片手で傷病者の顔を支えます。）
- 2 ② もう片方の手のひらの付け根で、傷病者の肩甲骨と肩甲骨の間を強く4～5回、迅速に叩きます。
- 3 ③ 口の中を見て食べ物が出てきたら取り除きます。



「病院へ行った方がいいのかな？」 迷ったら
「救急車を呼んだ方がいいのかな？」
東京消防庁救急相談センター 24時間対応 年中無休

#7119

つながらない場合は…

23区 03(3212)2323
多摩地区 042(521)2323

東京消防庁 東京都医師会 東京都福祉保健局

「日常生活ではどんな事故が起きているの?」「事故の傾向を知っていれば・・・」
そんな日常生活の中での事故に関するお問合せやご相談は・・・



生活安全相談ダイヤル



0120-286-119

- ・平成24年3月30日（金）まで開設しています。
 - ・利用時間 平日*の8時30分から17時00分まで
 - ・東京都内からおかけの場合に、ご利用いただけます。
 - ・IP電話（050番号）などからは、ご利用いただけません。
 - ・日常生活の事故に関する内容以外は、ご回答できません。
- ※ 平成23年12月29日（木）から平成24年1月3日（火）の間、受付はしていません。

「日常生活ではどんな事故が起きているの?」「事故の傾向を知っていれば・・・」
そんな日常生活の中での事故に関するお問合せやご相談は・・・



生活安全相談メール



seikatsuanzen@tfd.metro.tokyo.jp

- ・平成24年3月30日（金）まで開設しています。
 - ・24時間受付していますが、回答は平日8時30分から17時00分までとなります。
 - ・日常生活の事故に関する内容以外は、ご回答できません。
- ※ 平成23年12月29日（木）から平成24年1月3日（火）の間に受付たメールの回答は、平成24年1月4日以降となります。